

評価委員会総合評価

研究課題名：火山活動の監視・評価および予測技術に関する研究

評価委員

委員長：小泉 尚嗣

委員：岩崎 俊樹、関口 渉次、西村 太志、馬場 俊孝、保坂 直紀

評価年月日：令和5年12月22日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

我が国において火山研究は喫緊の課題であり、令和6年度より火山調査研究推進本部が発足するなど、火山研究成果を一般の方に示す機会も増えることが考えられる。本計画は、新しい地球物理学的手法や地球化学的手法を駆使し、総合的な監視・予測技術を目指しており、災害軽減のための総合的な火山の評価に資することが期待される。さらに、以下の点に留意して研究を進めてほしい。

- ・気象庁に蓄積された観測結果や解析結果をデータベース化することは高く評価できる。これを広く公開し、気象研究所以外の研究者が多様な考えで研究できる環境も合わせて整備してほしい。
- ・予測が困難とされる水蒸気噴火の監視や評価も目指すことはすばらしい試みではあるが、基礎研究的要素が強い点には注意が必要である。従来以上に、火山の監視状況や研究成果をわかりやすく示すことが求められる。
- ・噴煙予測では航空機の安全運航のために、噴煙の3次元分布の予測を掲げており、この目標は社会からの期待に沿うものである。気象研究所には、衛星観測や移流拡散モデルの優秀な専門家がいるので、分野間で積極的に協力してほしい。
- ・化学的調査手法は、気象研が最近取り組んできた課題であるが、着実に成果が上がっている。引き続き研究を進め、噴火警戒レベル設定等の業務に利用できるよう、実用化を進めてほしい。噴火警戒レベルの判定基準の設定においては「予測」が重要なので、副課題1では予測方法を構築することを大きな目標とするべきである。
- ・本計画で示された目標を達成したとしても、噴火を完全に予知することは難

しいと想像する。どの程度、監視・予測技術が向上するのか、「何ができて、何ができないのか」、研究を通じて明らかにしていただきたい。それが市民の防災意識の向上にもつながる。

・国民の関心は、一般的な火山学の学問知の蓄積ではなく、個々の火山についての噴火予測にある。その点に留意して、社会への説明を実践するとともに、進行中の研究についても、数多く発信していくことを望む。